



①各度数の分類方法について

磁気面を見ていただくと、左下に縦線で2本もしくは、3本線が有ります。画像をご参照下さい。



50度数は2本線で、105度数は3本線です。



320度数は4本線で、540度数は5本線です。

※電電公社時代のもので、線の無いものは

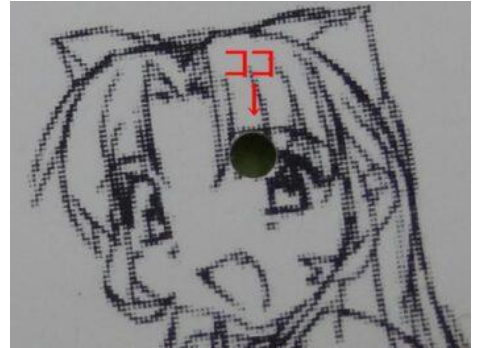
表面に記載の度数と合わせて上記の磁気面同様の縦線にてご確認下さいませ。



②穴あきについて

絵柄面で見ると柄に紛れて分りにくい事が有りますので
磁気面で検品していただく事を、お勧め致します。
例えば実際に穴の開いたテレカでご説明致しますと

絵柄面を見た場合



このテレカを磁気面で見るとこんな感じです。



※穴のあいている位置は
上部から5mm付近です。

また、公衆電話機の事情により、穴が完全に開いていないものがあります。
それが、こちらです。

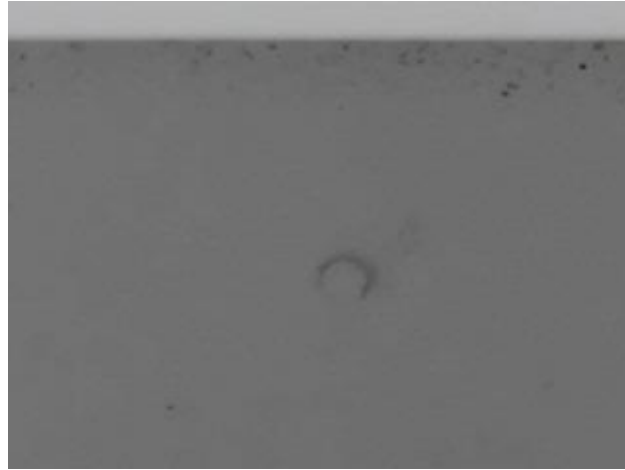
絵柄面



磁気面



拡大すると、このように見えます



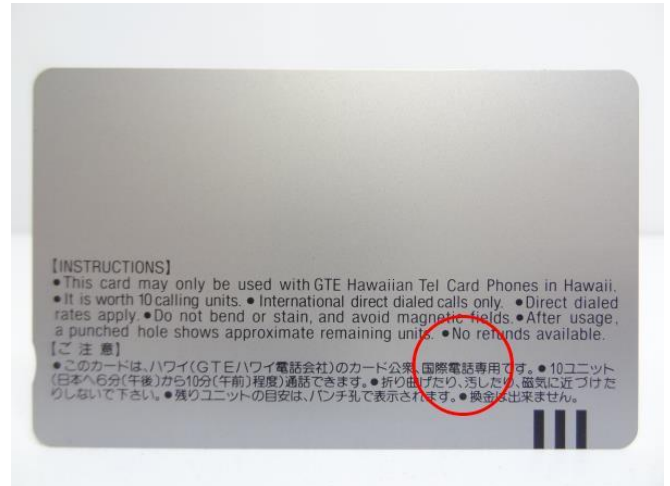
③その他買取不可カードについて

ハワイの国際電話用のテレホンカード

絵柄面



磁気面



フリーダイヤルカード

絵柄面



磁気面



他社金券カード

絵柄面



磁気面



磁気面の文言が紛らわしいですが、NTT及び電電公社にて発行されたテレホンカードの50度数に3本線は有りませんので、ご注意下さいませ。

**※両面印刷等、通常と異なるものや違和感の有るものは、
公衆電話にてチェックしていただく事をお勧め致します。**